

新規・継続等	新規	分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号	4	事業名	山地治山(復旧治山)				
市町村名	木曾町		ふりがな 箇所名	はしづめ 橋詰			事業年度 (完了年度は見込み)	H23	年度~	H24	年度	
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	谷止工2個、床固工2個、流路工20m、森林整備10.00ha					H22年度末事業進捗率	0%				
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%				
	H23年度実施内容	谷止工2個					用地補償費ベース	-%				
	年度	全体事業費		H21年度まで		H22年度	H23年度		H23年度以降残			
	事業費計(千円)	92,800		0		0	49,100		92,800			
財源内訳	国庫支出金	42,500		0		0	22,500		42,500			
	その他											
	県債	45,270		0		0	23,940		45,270			
	一般財源	5,030		0		0	2,660		5,030			
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			部	政策評価課			
								ランク	評点	ランク	評点	
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上		1~9戸	0戸		B	5	B	5	
		保全対象公共施設	2箇所以上		1箇所	なし			3		3	
		保全対象に弱者施設があるか	重要施設		一般施設		なし		0		0	
		保全対象(保安林・林業用施設)	「広域基幹林道」又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上		保安林率30%以上50未満又は流域対策上保全すべき森林あり	保安林率30%未満			2		2	
		小計						10		10		
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去5年に1回以上		災害履歴地	なし		A	5	A	5	
		交通遮断による地域経済などへの影響	大		中	小			5		5	
		防災計画上の位置づけ	あり		なし				5		5	
		小計						15		15		
	効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C2.0以上		B/C1.0以上2.0未満	B/C1.0未満		A	10	A	10	
		早期発現度	3年未満		3年以上5年未満	5年以上			7		7	
		流域の総合調整	あり		なし				0		0	
		小計						17		17		
	緊急性 (25)	最寄の保全対象までの距離	50m未満		50m以上200m未満	200m以上		A	7	A	7	
		地形、地質の状況	火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯かつ地すべり地形		火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯	その他			1		1	
		平均深床勾配(平均山腹勾配)	10°以上(30°以上)		5°~10°未満(20~30°未満)	5°未満(20°未満)			3		3	
		下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)	なし		あり(概ね満砂)	あり(ポケットあり)			5		5	
		危険地区危険度	Aランク		Bランク	Cランク			7		7	
	小計						23		23			
計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民活動強い		市町村要望有り	特に要望ない		B	7	B	7		
	事業情報の共有	関係者以外にも周知		関係者中心に周知	特に周知していない			3		3		
	住民参加の状況	住民が直接参加		住民市町村意見を反映	住民意見反映していない			3		3		
	小計						13		13			
費用対効果(B/C)		4.92		評価の合計			A	78	A	78		
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成18年7月豪雨により、溪床の洗掘と溪岸の侵食が発生し、下流に土砂が堆積し、水が保全対象まで流入した。平成18年度に災害関連緊急治山事業により谷止工1個を実施したが、隣接する溪流はその後の降雨により溪岸の浸食が進み、不安定土砂が溪流内に堆積しており、早急に対処されたい旨、地権者より役場に要望されている。また、流域の森林も過密化が進み、森林の公益的機能の低下が懸念される。										
	地域からの要望経緯	平成18年7月豪雨災害後に、地権者から地元自治会にも要望がなされ、さらに自治会から町へ毎年事業実施を要望されている。										
	事業説明等の経緯	本年6月上旬に現地調査を実施し、村及び自治会長、地権者に対し次年度事業として県当局に要望する旨を説明している。										
	環境・景観への配慮項目	伐採木は筋工等に利用して適切に処理することで、産業廃棄物発生抑制を図る。										
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。										
特記事項	保全対象は、人家・国道及び農地であり、国道は地元の生活道路のみならず、中京圏と開田高原を結ぶ観光道路でもあり、国道も災害時には避難ルートとしての位置付けがなされている。											
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他			
部意見	溪流沿いの森林の荒廃により、今後も溪流の侵食による土砂流出被害が発生するおそれがあるため、森林整備と溪流整備の一体的な施工により溪流の安定を図り、下流集落等を保全する必要がある。				政策評価課意見		重要性が高く、緊急性も認められる。					